



静岡県

わあ  
わあ

No.24



大特集

ひとひと  
男と女のバランスシート

— 男女共同参画型社会をめざして —

●特集／特別インタビュー 筑波大学 下村哲夫教授

消える日はいつ 建て前と本音の二重構造 ..... 4

ハイスクールウォッチング

県立掛川工業高校  
県立富士宮東高校  
県立静岡城北高校

6

ちよつとお邪魔します！メンズ・サタデーセミナー  
女性をまじえて討論会／突撃インタビュー ..... 8

●街角ズームアップ

富士女性プラン（富士市）

10

エイズは人権の問題（藤枝北高校）

●ぐるーぶねつと

人形劇団「おもちゃ箱」（韮山町）

11

小さな図書館グループ（浅羽町）

●編集員レポート

こどもの城

12

フォーラムよこはま

13

●本だな

編集員の選んだお薦めの本

14

●編集員のつばやま

おひび

15



大特集

## ひとひと 男と女のバランスシート

——男女共同参画型社会をめざして——

3月、4月は卒業・入学のシーズン。

子供たちは**希望**を胸に抱きながら、**未知の世界**に向けて旅立ちます。

**うれしさやまぶしさ**とともに自分の心の中で、これからどんな道を切り開いていくのか。男性だから女性だからという枠にとらわれずに、

**自分らしい生き方**を模索する若者たちの目は輝いているようです。

文部省の学習指導要領で、新年度から**高校の家庭科**が

「家庭一般」「生活技術」「生活一般」の中から、

**男女とも一科目の選択必修**となります。

本県では、すでに**17校**で必修または選択で

**男子生徒も家庭科を学んでいます。**

担当教諭も、いい手ごたえを感じているようです。男性と女性が互いに理解し合い、  
生き方を考えあう**男女共同参画型社会の形成**にむけて、

次代を担う若者たちに『**エール**』を送りながら、

本県では、**学校教育における男女平等**についてアプローチし、

**男女が同じ人間として、共に生きるあり方**の

模索へとつなぎたいと思います。



# 特別

# インタビュー

メガネの奥にある温かいまなざしがとても印象的な教授。

教育法規を教育実践の場においてとらえ、教師と子供双方の立場から、男女平等教育について語っていただきました。

筑波大学 下村 哲夫 教授

## 消える日はいつ

## 建て前と本音の二重構造

### 共学は男女平等の二つ

学校における男女平等教育の一つとして共学という方針があります。共学をすすめるために男女別定員数などを行っています。このことについて不平等という意見もありますが、制限を加えないと男子校や女子校化してしまうのです。共学でなければ平等教育が行われないかと申しますと、必ずしもそうではありません。別学化しても十分行えると思います。

学校は、建て前として男女平等が制度的に実現されています。しかし、実社会では相変わらずです。その現実について対応するか、その現実を、どう変えていくかが身につかなければ意味がありません。その点、共学のほうは、男と女が自然にいたので、考え方のほうが広がるかと思えます。

### 父親・母親の役割期待が大きい

男女平等教育と申しましても、社会、家庭などで違いがあると思えますね。例えば、夫と妻は、いま平等といわれかけています。しかし、これが父親、母親となると、明らかに役割期待が入ってきます。父親不在では子供によいくないなど、はっきりした性別による

役割期待があります。

また、職業でも平等化の一つで、保母のところへ保父が参入してきました。しかし、同じ仕事でも保父は力があるから、頼もしいといわれる。これも父親イメージの役割期待ですよね。同じ職業でも男と女で性別役割が期待されてしまう。

このように、ある部分では平等を強調して、他の部分では違いを強調するというのは、教育の分野においては非常に困ることなんです。どういう部分で平等教育をすすめていくのか、わからないということなのです。心理学者のいう父イメージ・母イメージの両方がないと家庭教育がうまくいかないのなら、その前提での平等になると思うのです。それとも、全部まっ平らの状態での平等なのか、はっきりさせてほしいと思えますね。動物では、父の役割がはっきりしています。人間の男女は、生物学的違いはあっても、役割分化が必要ないというのなら、それはそれでつきりするんです。心理学者と社会学者とで話し合っって、統一見解のような方向をだしてもらいたいぐらいですね。

### 性差が一番問題になるのは家庭

現場の教師たちも、建て前では平等を唱えても、根っこの部分に役割分担意識が残っているのが現実です。それに、男女平等に関する人権感覚は、教師養成過程で特別に教えるわけではないので、普段の学校での態度に、本音が出てしまうのは、ある程度しょうがないでしょう。

これと同様なことが、家庭でもみられます。職をもっている母親は多いのですが、パートが多いというのは、やはり、生活の中心が家庭にあるということでしょう。しかも、働く目的が住宅ローンや教育費などで、それが終われば仕事をやめて家庭にもどる人がほとんどです。そういう状況を子供たちは肌で感じているのではないのでしょうか。女性の大学での専攻に職業に結びつきにくいものが多いのも、そういう影響があるのではないですか。建て前の平等論よりも、本音の部分をはり自然にとり入れてしまおうと思えますよ。

性別役割分担のない小学生などの時期は、性差がありませんね。分担が出てくる時期になると問題が出てくる。特に家庭が一番問題だと思えます。だから、独身のままであれば、それほど性差を意識しないですむのかも知れません。



### 男女平等教育の意味

本音と建て前のある中で、男女平等教育の意味を、どこまで生かすことができるかということでしょう。

教育内容もさることながら、学校では女性教員数に比べて、女性の校長や教頭が少ないといわれます。しかし、東京では小学校の校長で17・3%、教頭では26・2%になっています。管理職試験に合格すれば、法的には男女平等の扱いです。女性の方が勉強しているので点数はとれると思います。でも、教頭や校長までなろうという人は少ないのです。

昔は、女性校長は特殊なタイプがありました。今は、ごく普通の女性が校長なんです。ですから、女性にどんどん進出してほしいですね。

### 意識の変化を期待

人類2万年の歴史の中で考えていけば、それほど急速に意識が変化するわけがないのです。われわれの世代を超えたあたりで、何かが変わってくるのではないですか。いまの世の中、男女が近づいてきているとはいえ、まだまだです。

しかし、名簿の男女別なども、前は考えてもみななかったことが、今は市民権を得て混合名簿が使われてきています。これも男女平等という建て前があつてはじめて気がついた問題だったのではないのでしょうか。

長い時間をかけて平等教育を押し進めていくうちに、どうしても平等にできないものが出てくるかもしれません。それは、生物学的な違いとして考えていくことではないでしょうか。

建て前と本音のずれが少なくなっていくのを期待して待つことではないですか。

※本記事は、編集局が下村家蔵に直接インタビューをしたものをまとめたものです。



下村 哲夫 しもむら・てつお  
 筑波大学教授 専門/教育学(教育法制論)昭和10年生まれ てんびん座  
 学歴/東京教育大学大学院教育政策(昭和38年)博士課程修了 教育学博士

### 3. 共学でしか学べないこと (複数回答)

	女子大 (人)	共学大 (人)
1 男女を含めた自然な広い交際範囲	68	58
2 男女の考え方や行動の違い	39	23
3 男性とのつきあい方(男友達)	23	19
4 広い見識	20	6
5 幅広い研究	10	4
6 協同	10	2
7 活気・ノリ	5	2
8 厳しさ	4	2
9 競争心・強さ	3	2
10 自主性	2	2
11 女らしさ	2	1
12 行動力	2	1
13 いいかげんさ	1	1
なし、わからない、無回答	44	52

### 2. 女子大でしか学べないこと (複数回答)

	女子大 (人)	共学大 (人)
1 リーダーシップ・自主性・自立	58	32
2 女性同士の人間関係	57	16
3 女性の心理・実態	15	15
4 女性学	15	13
5 家政学・家庭生活について	15	10
6 研究・勉強すること	5	6
7 女性としての生き方	3	4
8 女子教育	3	3
9 女らしさ・礼儀	2	2
10 化粧	2	1
11 美・和	2	1
12 雰囲気	2	1
13 他大学との交流	1	1
なし、わからない、無回答	60	78

○資料提供：日本女子大学家政学 家政理学科一部数学系大塚智子さん(1991)

### 女子大生に関するアンケート結果

○対象：4年制大学の女子学生387名(共学大生166名・女子大生221名)

#### 1. 女子大・共学大を選んだ1番の理由

